

すずめとつばめ

すずめとつばめ

(日本の昔話)

昔、すずめとつばめは姉妹でした。ある日、二羽のところへ、「お母さんが病気で、もうあぶない。」という知らせがとどきました。すずめは、仕事のとちゅうでしたが、着がえもせずに、すぐに飛んでいきました。そのおかげで、お母さんのさいごに間に合いました。

つばめは、きれいな着物に着がえて、ロベにをぬってから出かけました。けれども、着いたときには、お母さんはもう死んでいました。

それからというもの、すずめは人の家の近くで、お米を食べてくらせるようになりました。つばめは、虫しか食べられなくなったということです。

親を大切にする心が、二羽のくらしを分けたのです。

① すずめとつばめは、どんな関係かんけいでしたか。

② すずめが、お母さんのさいごに間に合ったのは、どうしてですか。

ア 近くにすんでいたから。

イ 着がえもせずに、すぐに飛んでいったから。

ウ つばめが知らせてくれたから。

③ つばめは、出かける前に何をぬりましたか。

④ さいごに、すずめは何を食べられるようになりましたか。

ア 虫

イ お米

ウ 木の实